

太宰府の文化財

471

蘭亭曲水図屏風

本市では元号「令和」を迎え5年が経過しました。令和の典拠が、天平2（730）年に大宰府で催された梅花の宴を記した『万葉集』

「梅花の歌」三十二首の序文にあることはご存じの人も多いかと思いますが、この原典と呼べる故事をご存じでしょうか。

梅花の宴からさかのぼること377年前、中国東晋時代の永和9（353）年3月3日、浙江省会稽山の蘭亭に、政治家であり書家である王羲之が文士41人を集めて禊ぎを行った後、川に浮かべた盃が自らの前に流れ来るまでに詩を詠む曲水の宴を催しました。ここで詠まれた詩を集めて王羲之が書いた序文が、古来名高い「蘭亭序」。王羲之の書の最高傑作とされ、奈良時代の官人にも教養として知られていました。

梅花の宴の序文は大伴旅人らが蘭亭序を参考に作ったとされ、令和の典拠となる一節「初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す」は

蘭亭序の一節「天朗らかに気清く恵風は和暢せり」と類似することが指摘されます。

曲水の宴は、奈良時代には日本に伝わり平安時代にかけて宮中で開催されました。太宰府天満宮でも天徳2（958）年に始まり、中世に途絶えますが、昭和38（1963）年に復活し、現在も神事として行われています。

本作品は、江戸時代後期に活躍した太宰府在住の町絵師齋藤秋圃が嘉永4（1851）年頃に作成した六曲一双の屏風です。梅花の宴の原典であり、太宰府天満宮ともゆかりのある蘭亭曲水の場面を、太宰府の絵師齋藤秋圃が制作した、太宰府と繋がり深い作品です。

令和改元五年を記念し、8月10日（土）から開幕する「まるごと太宰府歴史展2024」で特別展示します。ぜひ来場してください。

文化財課

木村 純也



▲右隻《蘭亭図》



▲左隻《曲水図》

〈展示期間〉

右隻《蘭亭図》8月10日（土）～9月22日（日）
左隻《曲水図》9月24日（火）～11月4日（月）

〈展示場所〉

太宰府市文化ふれあい館

齋藤秋圃筆
《蘭亭曲水図屏風》
紙本着色
各 177cm × 423cm
嘉永4年（1851）頃
個人蔵

編集／太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198 太宰府市観世音寺一丁目1番1号
☎092(921)2121 FAX(921)1601 ✉keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

太宰府市公式SNSの
フォローをお願いします！

